

第1学年 美術科 学習指導案

松山市立東中学校 教諭 眞柴 さなえ

1. 単元名 「命をつなぐマイスプーン」

2. 単元の目標

- ・ 「使いやすく美しい」という目的を満たすためには、スプーンは、どのような柄の形やすくうところの形であればよいか等を考え、表現することができる。 (知識・技能)
- ・ 「使いやすさと美しさ」を追求して表現することを通して、生活の中で使われている様々な道具などが、「使いやすさと美しさ」を両立するように考えられていることに気付き、将来の生活をより豊かにしようと考えることができる。 (思考力・判断力・表現力等)
- ・ 日本が昔から木を巧みに利用してきた文化の一端にふれ、木に親しみよりよく関わろうとする態度を身につけることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本題材は、使いやすく美しいスプーン制作を通して、「使うなどの目的や機能」を考えて表すことを学ぶ題材である。木の板は、なにも加工しなければ板でしかないが、生徒が「使いやすさや美しさ」を考えながら、工夫を凝らして加工すれば、自分自身の生活を豊かにできるものへと変えることができる。また、木材の利用がなければ、森林整備は行われず、多面的機能の低下や災害の被害増大につながり、次世代への資源を育むことも不可能となる。持続可能な社会を形成するためには、森林資源の適正な管理と運用は欠かせない。木材に「触れる」、木材で「創る」という体験活動を通して、愛媛の森、愛媛のよさを持続するという学びにつなげる。五感を通してESDに親しむことができる環境を作れば、持続的なESDを展開できると考えた。

(2) 生徒観

本学年の生徒は、松山市内中心部に住んでいる生徒が多いため、松山の観光名所の中に住んでいるといっても過言ではない。そのため愛媛や松山のよさに触れる機会が多い反面、校区内には山や川などの自然は多くはなく自然に触れる機会があまりない。しかし、小学校時代には、総合的な学習の時間では「地域のよさ」や「SDGs」、国語科では「白神山地」、社会科では「林業」において地域や環境について学んでいる。また、美術科では、1学期に「デザイン分野」に取り組んだ。「デザイン」は相手に伝わりやすいように、自分の思いだけでなく相手を意識した表現活動である。相手を意識した表現活動ができたか確認のために授業後に「美術は社会(生活)の役に立っていると思うか」アンケートおこなったところ、約34%の生徒が「分からない、役に立っていない」と答えている。この結果からも、身の周りにある意味ある形やデザインが美術と関連しているという認識が低いことが分かる。そこで、身近な自然のよさや松山のよさを感じながら制作に取り組み、美術が社会や生活をよりよくしているものであるということに気付かせたい。

(3) 指導観

本題材の指導にあたっては、愛媛県が全国的にも「木」という資源がとても豊富であり、愛媛の木材ブランドである「媛すぎ・媛ひのき」を全国的にも展開していることを生徒に伝え、愛媛産のひのきを使って、愛媛の命を受け継ぐという意識を高める。

ゲストティーチャーを招き、木の魅力についての話を聞くことで、木に関心をもち愛媛産の命を受け継ぎ、生活に生かしてくということに気付かせたい。

制作段階で、ゲストティーチャーを招き、道具の使い方や、木の性質などについてアドバイスをいただきながら制作を行わせたい。同じ木でも切る場所によって削りやすさがちがっていたり、思うように削れなかったりすることで、木と向き合いながら制作すること、道具と心を一体化することなどの大切さを学ばせることで、木は加工されても生き続けていることに気付かせたい。また、ゲストティーチャーの作品に触れることで、木の無限の可能性にも関心を向けさせたい。

最後に、作ったスプーンを使って食べた感想や、木や工芸品に関する自分の課題解決、そして「自分と社会と美術」について新聞にまとめさせる。制作だけでなく、木材や、木工製品、愛媛の魅力にも触れ関心を広げることで、愛媛の命をつないでいくことの大切さや生活に美術が役に立っていることに気付かせ、これからの自分たちの生活をよりよく生きていくためにできることを考えさせる。

(4) ESDとの関連

・ 本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

責任性・・・愛媛の自然を受け継ぎ、生かしていく。

・ 本学習を通して育てたいESDの資質・能力

つながりを尊重する態度

地域の木材店や木工の専門家との関わりを通し、木の魅力をより強く感じることができる。

多面的、総合的に考える力

美術活動を通して、社会問題に主体的に向き合うことができる。

・ 本学習で変容を促すESDの価値観

幸福感

自分も自分の周りも、その自分の住んでいる町や生活が豊かになることが、真の幸せ

世代間の公正

愛媛の自然を大切に、次の世代へ様々な形で引き継がなければならない

・ 達成が期待されるSDGs

1 1 住み続けられるまちづくりを

1 2 つくる責任、つかう責任

1 5 緑の豊かさを守ろう

4. 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力等	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
<p>① 生活用具などを捉える造形的な特徴などを基に、木でつくられた作品を全体のイメージで捉えることについて理解している。</p> <p>② 木工芸の材料や用具を生かし、制作の順序を考え、見通しをもって工夫して制作している。</p>	<p>① 用途や機能、使う人の気持ちを考えて主題を生み出し、木の特徴の理解に基づき、使いやすさや機能と美しさなどとの調和を考え、表現の構想を練っている。</p> <p>② 木工芸の目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、生活を取り巻く道具などに対する見方や感じ方を広げたりしている。</p>	<p>① 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>② 木や木工芸に関心をもち、自分の課題解決に意欲的に取り組もうとしている。</p>

5. 単元の指導計画（全10時間）

次	主な学習活動	学習への支援	評価備考（・）
1	○ 媛すぎ・媛ひのきの存在や、愛媛の木の魅力に気づき、自分の課題をもつ。	○ 木材店の高橋さんの話を聞くことで、愛媛が全国的にも有数のスギ・ヒノキの産地であることに着目させ、さらに木の魅力について感じさせる。	ウ②（主）
2	○ 使いやすく美しいスプーンの形について考える。	○ 木の魅力を生かしたものについて考えさせ、活動の意義をつかませる。 ○ 愛媛産のひのきを配布し、今後の活動に意欲を持たせる。 ○ 使いやすい形について考えさせる。	ア①（知） イ①・②（思） ウ②（主）
3	○ 形を木材に写して糸鋸を使って粗取りをする。 ○ 自分の課題について調べる。	○ 木工の専門家である愛媛大学の准教授に指導してもらう。	ア②（知・技） ウ②（主）
4	○ すくいやすさを意識しながら削る。	○ 木工の専門家である愛媛大学の准教授に指導してもらう。 ○ 木と向き合う高ことを意識させる。	ア②（知・技） ウ②（主）

5 ┆ 8	○ 小刀の使い方を工夫しながら全体を整えていく。	○ 木工の専門家である愛媛大学の准教授に指導してもらう。	ア② (知・技) ウ② (主)
9	○ やすりを使って磨き、オイルを塗って完成させる。	○ やすりの使い方や、オイルの性質を説明する。	ア② (知・技) ウ② (主)
10	○ 課題発表を聞いたり、友だちの作品を鑑賞したりする。	○ 調べたことや制作を通して学んだことをこれからの生活に活かしていきたいようにさせる。	ウ①・② (主)